平成6年度BELCA賞　ロングライフ・ビルディング部門　表彰作品

ディックビル

所 在 地　東京都中央区
建物用途　事務所、店舗
竣　　工　1967年
所 有 者　日誠不動産株式会社
設 計 者　株式会社海老原建築設計事務所
施 工 者　株式会社竹中工務店
維持管理者　日本ビルメンテナンス株式会社

〈審査評〉　ディックビルは、昭和35年（1960）、大日本インキ化学工業の本社ビルとして計画が開始され、昭和42年に竣工した地上18階、地下5階の建築である。いろいろのものが発展した高度成長期のこの時代、建築および都市計画の分野でも、さまざまの新しい技術が研究され、開発されたが、ディックビルは、この時期に育まれた新しい構想や技術を一挙に総合化し、一体にしたようなビルであった。例えば、柔構造による純鉄骨構造の超高層ビルであり、ロングスパンラーメンのオフィス空間は、1.5 m をモデュールとして、フレキシブルな空間として実現されている。建物の低層部には、商業・業務機能が収容され、都心型の複合ビルが実現し、ピロティーは歩道として提供され、1階内部には、十字形に公開通路が設けられ、3階の人工台地は公共に開放されるなど、都市への貢献を実践している。地階は都心の地下を瀝層まで一杯に有効活用し、将来を見込んだゆとりある駐車場が実現されている。また建築の多くの部分に工場生産部品が採用されている。例えば、外装の耐候性高張力鋼によるパネルであり、大型窓ガラスをガスケット留めする耐候性高張力鋼のサッシであり、耐火壁、防火区画に用いられた技術導入間もないALCパネルであり、床に用いられたシングルT型のPSコンクリートパネルなどである。デザイン的には、外観は外側に柱、梁を表現し、明快で力強く、かつ端整である。内部は、各部の細部に至るまで神経が行き届き、簡素で繊細で、洗練された美しさがある。

このように、計画・デザイン・構造・構法・材料・設備および施工にわたる新しい技術の統合は、建築主の期待に応えた設計者・海老原一郎の資質とともに、彼の提唱する「公開設計」によって実現した。ここでは構造・設備の専門家の他、設計の当初から竹中工務店の技術者が多数参加するものであったが、これは建築主・建築家・施工者、三者間に相互の信頼関係があってはじめて成立するものである。建物完成後もこの関係は継続している。例えば設計者・海老原一郎氏の死後、事務所は解散するが、大日本インキ化学工業株式会社は、氏のよきパートナーであった大坪幸定氏を建築顧問に迎え、初期の意図を踏まえる努力が行われている。この関係は、建築の維持保全に大きく寄与している。ビル管理は、管理規定に基づいて日本ビルメンテナンス㈱が行い、日常の点検・定期点検は、所定の要領や基準によって行われている。維持保全は、年次計画を立てて実施されているが、設計者の意図をできる限り残すことを基本にしている。具体的には、人工台地の防水の改修、外装の塗装、シール打替、地下コンクリート、受水槽の床置きFRP受水槽への更新などが行われ、さらにトイレのウォッシュレット装備、加湿される空調機への更新、リフレッシュコーナーの新設など、執務空間の快適化や、ハイグレードの機能を備えた国際会議場の新設なども実現されている。

このように建設当初の意欲的な質の高さを失わず、良く維持保全され、時代への対応も適切に実施されているディックビルは、BELCA賞LLB部門の賞にふさわしい優れた建築と評価できる。